

過渡期に向かうペット葬事業

葬儀社系

ペットと人の顧客相乗り目指し 徹底した個別火葬で商圈拡大図る

坂出ペットセレモニー [香川県宇多津町]

瀬戸内海に面する香川県のほぼ中央、宇多津町に所在する坂出ペットセレモニーは、(有)うたづ葬祭(社長井上弘治氏)のペット葬部門として2005年11月に事業参入した。

1979年創業(法人化は00年)のうたづ葬祭は、5年前に県内でいち早く家族葬に特化し、各地の家族葬ニーズに応えている。

地方公共団体からの要請で ペット葬を事業化

うたづ葬祭がペット葬事業を行なう以前は、役所にペットの火葬を依頼すると、役所側は生ゴミとして出すよう指示してたといい、しだいにそれが住民の反感を買うようになっていった。そのため同社が宇多津町をはじめとする周辺市町から相談を受けるようになり、その後要請される形でペット葬事業を興して参入した。

サービス地域は宇多津町、坂出市、丸亀市などの中讃地区の北部が中心になるものの、県都高松市をはじめ香川県全域、さらには一部徳島県からの利用もあるという。

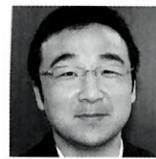
事務所はうたづ葬祭に隣接して設け、火葬場と霊園(納骨堂)は坂出市街の南東、丸亀市飯山町との境界上に位置する城山(標高462m)の中腹に開設している。

この城山の頂上付近には、7世紀天智天皇の時代に朝鮮勢力の侵攻に備え、屋島城・大野城などとともに構築された朝鮮式山城と推定される遺構が残っており、国指定の史跡になっている。また、山頂からは瀬戸内海の塩飽諸島や阿讃の山並みが一望できるため、ハイキングコース、ドライブコースとして親しまれている。このほかゴルフ場、温泉などもあり、市街地からはやや離れているとはいえ、周辺住民にとってはわかりや

すい絶好のロケーションといえる。

450坪の敷地に、火葬炉1基、納骨堂2棟、待合室からなる。敷地には余裕があり、屋外墓地を設けることもできたが、あえて納骨堂のみとした。

坂出ペットセレモニー開設にあたり、各地のペット葬事業者の視察を重ねたという、うたづ葬祭社長の井上弘治氏は、「屋外墓地と



(有)うたづ葬祭
代表取締役
井上弘治氏

■坂出ペットセレモニーの概要

所在地/香川県綾歌郡宇多津町
2267-1(営業所)
/香川県坂出市府中町城山
6173(火葬場・霊園)
開業/2005年11月
事業主体/(有)うたづ葬祭
主な設備/火葬炉(1基)
納骨堂(納骨棚318基)
合同慰霊塔、待合室
火葬件数/月間30~40件
<http://kagawa-pet.jp/>

図表 坂出ペットセレモニーの料金体系

火葬	小動物①(ハムスター、リス、小鳥、小型の爬虫類など)	7,350円
	小動物②(ウサギ、フェレットなど)	14,700円
	5kg未満(ネコ、チワワ、ポメラニアンなど)	21,000円
	5~10kg未満(マルチーズ、ミニチュアダックスフントなど)	24,150円
	10~200kg未満(ビーグル、コッカースパニエルなど)	28,350円
	20~30kg未満(ブルドッグ、シェパードなど)	36,750円
	30kg以上(ゴールデンレトリバー、セントバーナードなど)	47,250円
個別納骨供養(納骨堂使用料)	1年	5,250円
納骨維持管理費(納骨堂使用の場合初回のみ)		3,150円
合同納骨供養(合祀)		3,150円

※火葬料には棺、骨壺、別れ花を含む



観光コースにもなっている城山の中腹にある坂出ペットセレモニーの火葬場と霊園



点火口をはじめ全体を隠さずに設置した火葬炉



納骨堂は2棟あり、納骨棚は40%が埋まっている

納骨堂の2タイプを設けているペット葬事業者の方から、屋外墓地に比べて納骨堂の利用率がきわめて高いと聞いたこともあり、屋外墓地を設ける敷地はありましたが、納骨堂しかつくっておりません。実際、これまでに墓地を希望された方はお1人だけでした」と語るように、当初から屋外墓地は設けていない。納骨堂は現在2棟あるが、将来的には増設可能である。

ていねいな火葬方針のもと 母体の葬儀社スタッフも関与

同社では、火葬の際には飼い主に立ち会ってもらうことを基本にしている。実際、ほとんどが飼い主立会いのもとで火葬している。数体をまとめて火葬する合同火葬は一切行なっておらず、1体ずつていねいに火葬することを基本方針としている。

これまでの火葬実績は、平均すると月30~40件である。うち個別火葬をし、その後遺骨を持ち帰るケースが50%、合祀が30~40%、納骨堂利用率は10~20%となっている。

2棟ある納骨堂には合計318基の納骨棚があり、料金は年間

5,250円(税込)で、区画の大きさ(縦横23cm、奥行21cm)はすべて統一されている。

納骨堂は年間契約となるため、当初納骨堂を利用しても、1年後、あるいは2年後などに合祀に切り替えることもある。

火葬炉は大型犬にも対応できるものである。通常は点火口などを飼い主に見せないようにしているが、同社ではあえて火葬炉全体が見えるようにしている。「点火するところも見ていただくことができますし、別の取出し口がないこともわかっています。これは不正ができないことを示すことにもつながります」。こうした姿勢は、今春の遺骸遺棄事件後、一層信頼感が高まったという。

スタッフは専従者2人に加え、搬送業務についてはうたづ葬祭のスタッフが担当するケースも少なくない。うたづ葬祭の一部門としての位置づけにあるため、現在は坂出ペットセレモニーのお客様であっても、今後はうたづ葬祭の



合同慰霊塔。合祀比率は火葬件数の30~40%

お客様にもなりえることから、うたづ葬祭のスタッフも積極的にペット葬事業に関わる。

同社では、毎年150人以上が参加するペットの合同供養祭を開催している。うたづ葬祭と法事・法要の際の提携関係にあるホテルサンルート瀬戸大橋を会場に、宗教者を招いて行なうものである。

こうしたお客様イベントが功を奏し、納骨堂は現在40%ほどが埋まっている。当面は現状の318基の納骨棚で対応できるが、よりプライベートの保てる個別火葬を徹底していることから、口コミにより商圈も拡大。今後は納骨堂の利用実績をさらに上げ、増設の必要性に迫られるほど事業拡大するのが当面の目標だ。

(吉岡真一)